

10月のなぞり書き

その1

うすい字をなぞって、俳句を書きましょう。

	法
	隆
	寺

	鐘
	が
	鳴
	る
	な
	り

	柿
	く
	へ
	ば

①
正岡子規

柿くへば 鐘が鳴るなり 法隆寺

かきくえば かねがなるなり ほうりゅうじ

うすい字をなぞってから、左のマスに書き写します。

10月のなぞり書き

その2

うすい字をなぞって、俳句を書きましょう。

	秋
	の
	暮

	行
	く
	人
	な
	し
	に

	こ
	の
	道
	や

②
松尾芭蕉

この道や 行く人なしに 秋の暮

このみちや ゆくひとなしに あきのくれ

うすい字をなぞってから、左のマスに書き写します。

10月のなぞり書き

その3

うすい字をなぞって、俳句を書きましょう。

	す		隣		秋
	る		は		深
	人		何		き
	ぞ		を		

③
松尾芭蕉

秋深き 隣は何を する人ぞ

あきふかき となりはなにを するひとぞ

うすい字をなぞってから、左のマスに書き写します。

10月のなぞり書き

意味

俳句の読み方と、季語・意味です。声に出して読みましょう。

① 柿くへば 鐘が鳴るなり 法隆寺 正岡子規

読み方 かきくえば かねがなるなり ほうりゅうじ

季語 柿（秋）

意味 柿を食べていると、法隆寺の鐘が鳴りひびいてきた。

② この道や 行く人なしに 秋の暮 松尾芭蕉

読み方 このみちや ゆくひとなしに あきのくれ

季語 秋の暮（秋）

意味 秋の夕暮れ、この道を行く人はだれもない。

③ 秋深き 隣は何を する人ぞ 松尾芭蕉

読み方 あきふかき となりはなにを するひとぞ

季語 秋深し（秋）

意味 秋も深まった。となりの人は、何をして暮らしている人なのだろう。

読み方は、いまのかなづかいで書いています。